

盛夏時に於ける男子の代表的な種々の服装について、着装時の衣服気候、体温及び皮膚温について測定を行ない、その放熱状態を比較した。

実験室の環境は、温度 28 ~ 29 °C、湿度 80 ~ 83 % の無風状態で行った。供試した衣服は、最近市場に多くみられるポリエステルを主体とし、これに綿、麻、毛などを混織したもので、背広上下、サファリー上下及び長袖ワイシャツ、半袖ワイシャツ、肩章付半袖シャツ、開衿半袖シャツなどで、ポリエステルの混用率は 55 ~ 65 % であった。これらの衣服で、上着を着た場合と、上着なしのシャツスタイルとに分け、また、それぞれネクタイ（絹 100 %）をしめた場合などについて、組合せを変えて着装した。被験者は、綿 100 % の肌着（ランニングシャツ、パンツ及び靴下）を着けて、実験室内で 1 時間静かに過ごし、その後、前記の衣服を着装し 1 時間経過時の口腔温、胸部皮膚温（サーミスター温度計、東邦計測器）並びに各衣服層間の温度、湿度（鋭感温湿度計、昭和理科学）及び気動（微風速計、柴田化学器械）の測定を行った。

その結果、上着なしのシャツスタイルの場合では、開衿シャツの放熱効果が大で、ついで半袖シャツと肩章付シャツで、長袖シャツが低く、さらに、ネクタイをしめた場合（開衿は除く）がこれより低く、その順位も前述した順であった。また、上着をつけネクタイをしめた場合は、サファリー着装時の放熱効果が大で、ついで背広長袖シャツで、半袖シャツが最低であった。また、衣服内の気動は 2 ~ 4 cm/sec で、これは従来 10 ~ 40 cm/sec と一般に信じられている値より小さい。